

## 学生大使 実施報告書

氏名：大場 心結

学部・学科(コース)・学年：地域教育文化学部・児童教育コース・2年

派遣先大学：新モンゴル学園

派遣期間：2025/2/26 ～ 2025/3/11

### 1 日本語教室での活動内容

日本語のレベルの上級者と、中初級者の二つのクラスに向けて、日本語の授業を行なった。日本に留学予定の生徒も多く、より自然な日本語を使って話すことを意識した。私は、日本とモンゴルの文化の違いと、日本で何度も行ってみたい場所という二つのテーマを担当し、PowerPoint を作成した。派遣期間中に出かけることが多く、準備時間は短かったが、放課後や帰宅後の時間を使って授業準備を行なった。日本語初級レベルの学生もいたため、英語も使いながら説明したり、理解しづらい単語をホワイトボードを使ったり、写真をメインに資料を作成し、難しい表現も想像しやすいような工夫をした。モンゴルの学生の英語レベルは高く、英語で説明することの大変さや自分の英語力の低さも感じる事ができた。反対に、モンゴルの学生の発表では、モンゴルの食生活や、遊牧民の生活、観光スポットなど、現地の学生から貴重な話を聞くことができ、渡航前には謎だったモンゴルについて理解を深める事ができたと思う。また、自由交流時間では、大きな円になって日本とモンゴルのそれぞれのことは遊びや体を使いながらのゲームをして楽しんだ。

### 2 日本語教室以外での交流活動

まず、派遣期間にツアガンサルと呼ばれるモンゴルの旧正月があり、伝統的な文化を体験することができた。3日間は、親戚中の家をまわりながら、挨拶をしたり、料理を食べたりして特別な経験をすることができた。血縁関係が遠い親戚でも、家族として遠方まで会いに行ったり、思い出話をしたり、モンゴルの家族を大切にする文化を近くで感じる事ができ、とても良い経験だった。特に、モンゴルのミルクティーや馬乳酒、アーロールなど、日本にはない味を知ったり、シャガと呼ばれる羊のくるぶしを使ったゲームなどを一緒に楽しんだりしたことが印象に残った。

放課後や休日には、学生とビリヤードをしたり、博物館や夜景など、観光スポットに案内してもらったりして交流した。学生がよく行くスポットや、ご飯屋さんに連れて行ってもらったことで、実際の現地学生の生活を体験することができて、とても楽しかった。観光スポットには、他の学生大使と一緒に行動していたもの、日本人だけで固まることもなく、モンゴルの学生と混ざりながらいろんな話をすることができたと思う。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

私が、学生大使として参加する前に目標としていたこと二つあった。二つとも、概ね達成することができたと思う。一つ目の、モンゴルの現地学生との交流を通して、モンゴルの文化を知り、日本の文化を

## 【学生大使 実施報告書】

伝えることについては、日本語教室や、学校以外での交流で達成できたと感じる。夜遅くまで授業準備をして、日本の文化や、おすすめのスポットについて伝え、ホストファミリーや現地学生との交流の中では、不思議に思ったことや疑問を遠慮せず、その場で質問するように意識していた。

二つ目のモンゴルの学校教育を知ることについては、ホームステイの生活や小学校で行われている体育と英語の授業を見学させてもらったことで達成できたと思う。特に、海外の英語教育について個人的に興味があり、実際の小学校の授業見学に参加できたことで、得るものは多く、参考になった。授業では、全て英語での指示で、クラスを少人数に分けて小さな教室で授業を行っていた。児童は、英語を書くよりも、話すことが中心であり、積極的に授業に参加していた様子だった。授業後、使用している教科書を見せてもらったり、英語教師の話を聞いたりして、日本との相違点を学ぶことができた。

### 4 プログラムに参加した感想

私はこのプログラムに参加するかどうかが悩んだ時もあったが、学生大使の活動を終えて、参加することを決めて良かったと思っている。ホームステイという、より深くモンゴルでの生活を体験することで、日本での生活に慣れてしまっているがために、日本との違いをストレスに感じることもあったが、細かいことを気にせず、モンゴルでの生活を楽しむように心がけた。ホストファミリーには、色々な場所に連れて行ってもらったり、美味しい家庭料理を振る舞ってもらったり、自分を家族の一員として接してくれて、とても感謝している。そのため、ただの海外旅行とは違って、一般家庭で生活できるモンゴルを選んで、正解だったなと感じている。モンゴルの人は、友達間の距離が近く、とても仲がいいと感じた。学校内でも、ほとんどの人を友達のように接していたり、すれ違ったらハグして挨拶したり、そんなフレンドリーな性格だからこそ、二週間という短い期間でも仲良くなれたのだと思う。

また、大勢の前に立つことが少し苦手であった私は、ホストの A さんの通っている医科大学でプレゼンをしてみないかと言われた時は迷ったが、せっかくのチャンスを無駄にしたくないと思い、チャレンジしてみようと決めた。学生大使プログラムに参加して、消極的な自分から少し変わった瞬間であり、新しいことに挑戦してみようという気持ちになった。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

初めてホームステイを経験して、日本語が話せるホストにたくさん助けられた部分があったなと感じた。モンゴルで関わった学生も、母国語としてのモンゴル語のほかに、英語と日本語が話せる人が多かったため、不自由に思うことは少なかった。その中でも、どの学生も英語のレベルが高く、発音がすごく上手だなと思った。逆に、自分の英語能力が十分ではなかったため、会話の中で思ったことを英語で伝えることができず、もどかしさを感じた。どうしても文法を気にしてしまって話す前に考えたり、文ではなく単語を並べるだけになったりしてしまい、悔しい思いをした。そのため、活動を終えて英語で海外の人と自然に話せるようになりたいという思いが強くなった。今後は、スピーキングの学習に力を入れて、英語力の強化を頑張りたいと思っている。さらに、ホームステイや学生との交流で生まれたモンゴルとのつながりを大切にして、これからも関係を続けていきたい。

## 6 現地での活動写真

### 写真1

スファートル広場の氷のオブジェ



### 写真2

現地高校生との交流の様子



写真 3

モンゴルの伝統料理



写真 4

亀石に登っているとき

